



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 第1回医学生のためのプライマリ・ケア道場 (愛媛)

愛媛研究会 川本龍一

1) 「第1回医学生のためのプライマリ・ケア道場」が、平成26年2月15日(土)に開催され数多くの学生の参加がみられました。その中から、チラシおよびロールプレの場面を写真で示します。

2) 「愛媛PIPC (Psychiatry In Primary Care)」
PIPC で著名な宮崎 仁先生(宮崎医院 院長)をお招きしてセミナーを開催します。日程と場所は、3月15日(土) 18:00 前夜祭(愛媛大学工学部)～3月16日(日), 12:00 (愛媛県立中央病院講堂)となっています

3) 禁煙に関するトピックスとして、加藤正隆先生による下記の予定があります。週刊日本医事新報が、2月15日から「プライマリケア・マスターコース 成功率UPを目指せ! 禁煙支援のコツ」の連載(3回シリーズ)を開始します。その中で、第1回目は、「プライマリ・ケア医には「毎日が世界禁煙デー」!」となっています。

<http://www.jmedj.co.jp/>



岡山総会で、5月11日(日)8:00～9:00、第5会場にて、インタレストグループ3「地域における禁煙・喫煙防止教育

の実際」を日本プライマリ・ケア連合学会タバコフリーWGのメンバー(四国支部からも多数参加)が主体となって開催します。地域ですぐに使えるツールの配布なども予定していますので、是非とも御参加ください。

第1回 医学生のためのプライマリケア道場

～先足記念会 進行プログラム～

内容	司会進行	講演者(地域医学生)
Warming up: Pre-In the Clinic G&A	13:00～13:10	熊本天児
道場序言	13:10～13:30	熊本天児
お祝い	高橋 謙 藤原 悠	川本龍一(地域医学生)
In the Clinic (I)	13:30～15:00	
看護	5回生 末田悠志 小笠原真子(産科)	
インフルエンザ	5回生 岡野 光 藤原 悠 佐藤 真(産科)	
C型肝炎	5回生 藤 貴介 藤原 悠 佐藤 真(産科)	
Tea break: How to search journals?	15:00～15:20	藤原 悠
道場序言(II)	15:20～15:40	
動機	4回生 小島 尚 熊本天児	
In the Clinic (II)	15:40～17:10	
心臓病	5回生 中津屋 光紀 川本龍一	
深部静脈血栓	5回生 松田 幸希 熊本天児	
寛容性糖尿病	5回生 藤原 悠 藤原 悠(産科)	
Wrap up: Post-In the Clinic G&A	17:10～17:30	川本龍一
閉会式(閉会、感謝、次、希望、決)	19:00～	会場 3,000円前後

場所: 会場 岡山県立中央病院 地域医学生センター1 階講義室
電話: 087-848-4028

参加希望の方は閉会式への参加の意思も含め、2月13日(木曜)夕方までに各学年の担当までお願いします。当日参加も可能ですが、テキストを準備できない可能性があります。

★2 香川プライマリ・ケア研究会開催される (香川)

陶病院 大原昌樹

平成25年度香川プライマリ・ケア研究会が、平成26年2月11日(火・祝)、高松市内で行われた。本研究会は、平成6年に第15回日本プライマリ・ケア学会全国大会が香川県で行われたのをきっかけに、医療系各種団体が集まり研究会を作ったことに始まる。その後、福祉系職種や県も加わり、現在、医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、臨床検査技師、歯科衛生士、ホームヘルパー、介護福祉士、介護支援専門員の12職能団体と県の13団体の会に発展している。

まず、特別講演は、「リハビリテーションの目的とその役割」と題してNTT 東日本関東病院リハビリテーション科部長稲川利光先生にお願いした。農学部を卒業した後、理学療法士の資格をとり3年間現場で働いた後、当地香川医科大学に入学した異色の経歴の持ち主である。卒業後も異色で、循環器内科の医局に入ったがそこを飛び出し、伊豆のリハビリ病院に就職、回復期や在宅医療を経験した後、現在、600床の大病院でリハビリ部長をしている方である。月1万5千円のアパート暮らしから始まり苦労した学生時代の話から、リハビリの心、在宅の楽しさ、現在の急性期病院で気をつけていることなどを楽しくユーモアを交えてお話しいただいた。急性期病院のスタッフも在宅のことを知らないといけないこと、患者さんの背景を考えることが大切という点を特に強調されていた。「リハビリの心と力(学研)」などの本を出版されたり、NHK Eテレにも出演されておられるので見ていただきたい。

その後、一般演題であったが、今回は10演題、10職種から発表があった。演題名だけ紹介するが、①栄養士：「廃用性症候群から脱却への取り組み」、②理学療法士：「高齢者入居施設における理学療法士の役割」～事例を通じた介入効果の一例～、③歯科衛生士：「知的障害者通所施設における歯科に関するアンケート調査からの報告」、④歯科医師：「香川県 歯の健康と医療費に関する実態調査」-特定健診歯科問診項目における調査から-、⑤薬剤師：「保険薬局の在宅療養への係わりについて」⑥介護支援専門員：「多職種連携で世帯を支援した2例」、⑦介護福祉士：「転倒骨折による入退院後の介護保険サービスの利用を支援して」、⑧作業療法士：「訪問リハビリテーションの役割」、⑨医師：「当地域の在宅医療における多職種連携の現状」、⑩香川県：「介護保険制度改革の方向性」～地域包括ケアシステムの構築～、であった。それぞれ工夫を凝らした発表で熱意が感じられた。他の職種に理解してほしいことも発表内にうまくまとめていただき、お互いを理解することにつながったと思う。熱が入りすぎて、4時半終了予定が5時までかかったが、本当に有意義な会であった。

★3 JACA 視察団受け入れ (徳島)

美馬市国民健康保険木屋平診療所 藤原真治

本ニュースレターをお読みの方々の施設でも、海外からの視察団を年に何度も受け入れられているところがおありかと思えます。今回、地元紙で記事になった視察があったのを機会に、当地域での様子をご報告します。

平成26年2月3日(月)、国際協力機構(JICA)四国支部が主催、高松市にある公益社団法人セカンドハンドが事業を受託・実施した「へき地での保健医療体制の向上コース」の一環で美馬市木屋平の視察が行われました。視察団は中東からグルジアとイエメン、アフリカからガーナ、中南米からホンジュラス、中央アジアからタジキスタンなど7カ国10名の多彩な顔ぶれでした。

当地域での地域医療の概要を講義形式でご紹介し、木屋平診療所の見学をして頂きました。いつもは訪問診療に数件ご同行頂くのですが、僕が視察団の到着直前にインフルエンザに罹患していることが判明し(!)、中止となりました。各国の医療状況を互いに紹介しながら、木屋平の地域医療について熱心なご討議を頂き、出席者全員にとって楽しく有意義な時間になったと感じました。

2014年(平成26年)2月4日 火曜日 地域 (12)

藤原医師から診療体制などについて説明を受ける各国の研修生＝美馬市の木屋平診療所

発展途上国の医師ら

へき地医療の現場視察

発展途上国の医療関係者を対象にした、国際協力機構(JICA)四国支部など主催の研修会が3日、美馬市あり、ガーナやグルジア、イエメンなど7カ国の10人が医療施設などを視察した。

テーマは「へき地でPCと連携して取り組む保健医療体制の向うに患者の送迎や上」。木屋平では、市 服薬指導について説明

研修所の藤原真治氏を受け、往診や各師(43)から、地元N種検査の仕組みなどを

熱心に質問した。脳断のホウエイ病院では、ドクターヘリが発着するヘリポートを見学した。

ホンジュラスのコパン州保健医療センターで政策調整などに携わる医師ワレスカ・カルドナさん(46)は「住民と一体で健康維持に取り組んでいるのが素晴らしい。往診などの仕組みも参考にしたい」と話した。

四国の過疎村や離島での医療体制を学び、各国の保健行政に役立ててもらうのが目的。一行は2月10日まで約20日間、徳島、香川、高知の3県を順次視察している。(立尾貴宏)

7カ国10人 美馬で研修会



学医学生、大変ありがとうございました。これからも徳島の地域医療を盛り上げていきましょう。

関東の雪のため亀田ファミリークリニック館山で勤務中の河南真吾先生が来れないというハプニングがありましたが、会の後の親睦会も楽しく盛り上がりました。

★6 へき地医療を支援するドクターヘリの新たな運用を目指して（高知）

高知医療センター 澤田 努

2014年2月13日～14日にかけて、高知医療センターのフライトドクター、CS、高知県消防防災航空隊、高知県庁の救急医療担当職員らで熊本県へ視察に行ってきました。

熊本県では、ドクターヘリと共に県の消防防災ヘリもあって、両者がうまく共生した形で運用されており、高知でも是非そのやり方について学びたいという趣旨の視察でした。熊本では、火災・救難などと共に、ドクヘリが必要となる救急要請（転院搬送を含む）についても全て県防災消防航空センターが窓口となり、その情報をドクヘリ基地病院である熊本日赤病院だけでなく、その他患者さんの受け入れに関与する他の3次病院3施設（国立病院機構熊本医療センター、熊大医学部附属病院、済生会熊本病院）の救急医師が同時にその通話を聞くシステムになっています。



そのため、救急隊はドクヘリと防災ヘリのどちらを要請すべきか迷うこともなく、日頃から顔の見える消防関係者間で情報のやり取りができ大変スムーズな運用でした。転院搬送は基本的に受け入れを行う側の病院医師が、防災ヘリに同乗して患者さんを迎えに行く形になっているなど、そのほか高知で学ぶべき点が数多くみられました。

高知では現在年間500件を越えるドクヘリ要請件数となっており、今回の視察では、高知における新たなドクヘリと県の防災ヘリとの新たな共生のあり方についておおいに参考になる大変有意義なものでした。県内の中山間・へき地の救急医療を守る大切なドクヘリと防災ヘリなので、これからも引き続き現場の意見を集約しながらより有効に活用していければと考えています。

★7 四国支部事務局から

四国支部 板東 浩・大原昌樹

昨年11月に高知で四国支部大会が開催され、その際には、阿波谷先生・澤田先生をはじめ、多くの関係者の方々に御世話になり、まことにありがとうございました。

その後、各先生から提出いただいた論文をまとめ、大会の様子は他の参考資料も含み、ほぼ編集を終了いたしました。日本PC連合学会では、新しい年度に関する役員選挙が行われ、四国支部の評議員が決定し、その際の名簿を示します。愛媛県：川本龍一、加藤正隆、高原完祐、村上晃司、杉山圭三、原 穂高、大塚 伸、香川県：久保文芳、横井 徹、木村年秀、千田 彰一、大原昌樹、中津守人、舛形尚、泉川美晴、佐藤清人、塩見勝彦、徳島県：谷 憲治、河野光宏、山口治隆、鎌村好孝、白川光雄、板東 浩、藤原真治、村山善紀、高知県：瀬尾宏美、武内世生、阿波谷敏英、夕部富三、青木啓祐、澤田努、佐野良仁。次第に、学会の新体制も決まっていくと思われれます。四国支部でも評議員のよる会議を行い、今後の方針等を決定して参ります。

また、2014年11月15～16日には、白川光雄先生が大会長を担当して、徳島で四国支部大会が開催され、いま、準備を進めております。次回のニュースレターではある程度、四国支部大会について、いろいろな情報をお伝えできるものと思われれますので、しばらくお待ち下さいませ。